

ちよくちよく日本語シリーズ I

韓国の大学生が日本語で書いた

# シナリオ

関東大学校「日戯曲演習」受講者 作

はじめまして。丸島歩と申します。

ふだんは韓国の大学で日本語を教えています。

このたびは、数ある電子書籍の中から本書をお手にとっていただき、ありがとうございます。

私が教えている大学は、韓国の江陵市という地方都市にあります。

海も山も近くて自然に恵まれた町です。

私は二年前にこの大学で教え始めました。

ここで教える前は、日本の日本語学校で教えていました。そのときの学生のほとんどは、進学を目的に日本に来ていましたし、アルバイトをしながら勉強していましたから、勉強していることがそのまま進路とか生活に直結しました。

でも、ここの学生は必ずしもそうではありません。

強い目的意識のある人は別として、今勉強していることがどこにつながるのかわからない人が結構いるように思います。

毎日のように一緒に日本語を勉強しているのに、それが狭い教室の中で終わってしまっているのが、とても寂しく感じていました。

それから、学生たちが一所懸命に話す内容は、時に外国人である私にとっては目新しいことであったり、小さな発見をくれるものです。

それが私のところまでで留まってしまうのも、とてももったいないと感じていました。

教室での学びを、なんとか教室の外に出したい、ということをも、ずっと考えてきました。

今までも授業で作成した動画を、自分のwebページや口コミサイトなどにアップロードしたりしました。

1人でできることは多くはないですが、これからも少しずつ工夫していきたいと思っています。

この本を作ったのは、学生たちが書いたものを、誰かに見ていただける場所を作りたかったからです。

表紙の左上に「ちよくちよく日本語シリーズ」と書いてありますが、今後も続けていきたいと考えて、シリーズにすることにしました。

(ちなみに、この「ちよくちよく」は、「学期が終わったあともちよくちよく書き続けてほしい」という思いと、韓国語の「チョクチョク」(「すらすら」の意)をかけたものです。)

シリーズの第一弾であるこの本は、私の勤務先である関東大学校という大学で、2013年に担当した「日  
戯曲演習」の受講生によって書かれたシナリオ集です。

授業そのものは既存のシナリオの理解と実践を中心に進めたのですが、最後に課題として一人ずつにシ  
ナリオを書いてもらいました。

その中から、作品として純粋に楽しめるものや、学生たちの生活や価値観が垣間見えるような作品を選  
んでまとめてみました。ほとんどの作品がコメディータッチなので、気楽に読んで頂けると思います。

なお、すべてのシナリオは私自身が添削しましたが、もともと書かれたものをある程度尊重したため、若  
干不自然なところや読みにくい部分があるかもしれません。

日本語学習者が書いたものだということを差し引いて読んで頂ければ幸いです。

この本に少しでも興味を持ってくださったあなたに少しでも楽しんで頂けたら、これ以上の幸せはあり  
ません。

丸島 歩（担当教員）

# 目次

---

まえがき	1
目次	3
彼女ができた！（キムゴヌ）	4
誕生日の相談（チェジウォン）	8
何がはるなをさみしい気分にしたのか（クオンミネ）	11
紹介してください！（キムセジン）	14
それぞれの進路（イドンヒ）	20
彼女は・・・（チョンジュンピョ）	25
シェアハウスの4人と一匹（キムジヒ）	29
あとがき	38
奥付	39

# 彼女ができた！

---

## <登場人物>

男一 健太（けんた）

男一 平次（へいじ）

男一 仁（じん）

女一 哀（あい）

---

カカオトークで、平次は友達の健太と仁に会う約束をする。

## <カフェで>

平次： あ、ちょうどよかった。こんにちは。

仁： こんにちは。

健太： こんにちは。ところで、何かあったの？

平次： ああ、良いニュースがあるんだ。

仁： 本当？何のニュース？

平次： 僕、彼女ができたんだ。

健太： すごーい、平次。おめでとう。

仁：健太、お前も最近彼女できたでしょ？

平次：あ、本当？

健太：うん、僕もできたよ、先週に。

仁：ねえ、ねえ、実は僕もできた、彼女。

平次：え？みんな隠すなんて水臭いよ。

仁：ごめん、機会があれば、話そうと思ってたんだよ。

健太：皆、もしかして彼女の写真を持ってるの？ 持ってたら、彼女の写真みせてくれよ。

平次：あ、ちょっと、彼女から電話がかかってきた。ごめん。

平次の彼女は平次がいる場所へ行きたいと言う。

平次：ねえ、僕の彼女がここへ来たいって。

健太：いいよ。僕達も平次の彼女に会いたいから。

哀が登場する。

哀：平次！

平次：うん、ここだよ。

仁、健太：（哀をみて）…嘘！

哀、仁、健太、皆驚いた。なぜなら、仁と健太が出しておいた自分の彼女の写真の人物が哀だったからだ。

哀は三人の彼と付き合っていたのだ。

健太：哀ちゃん。一体どうしてこんなことをしたの？

哀：(下を向いてしまって) …。

仁：哀ちゃん。嘘でしょ？ 嘘でしょ？

哀：私は皆全員好きだよ。平次、仁、健太、皆私の彼だと思ってるわ。

平次：こんなこと、ありえない。

哀：しかし、私は平次、仁、健太皆好きなのに…。

健太：そう言っても三人全部と付き合えないよ、哀ちゃん。

哀：それじゃ、私がここで一人だけ選ばなければならないということ？

仁：そう。ここで本物の哀ちゃんの彼を選んで。

哀：仕方ないね。それじゃ、私について一番よく知ってる人を選ぶわ。それでいい？

平次：うん、いいよ。そうしよう。

哀：まず、健太くん。私の誕生日はいつか知ってるでしょ？

健太：うん、もちろん。3月20日。

哀：うん、そうそう。はっきり覚えてるね、健太くんは。

仁：僕も知ってたよ。この間、哀ちゃんの誕生日の時に僕がシャネルのバッグをあげたでしょ？

哀：うん。でも、あのシャネルのバッグ、偽物だったよ…。友達の前で恥をかいたわ。

仁：どうしてわかったの？ あの時さ、お金があまりなかったから…。ごめんね。

平次：哀ちゃん、僕にも質問してくれよ。すぐに言い当ててしまえるよ。

哀：ああ、うん。では…。私の携帯電話番号を覚えてる？

平次：もちろん！ 010 - 1234 - 5678でしょ？

健太：それはすごい簡単な問題だよ。

仁：それじゃ、哀ちゃん。最後に僕にも質問してくれよ。

哀：うん、いいよ。私の正確な身長と体重を知ってる？

仁：身長は 157.2cm で、体重は六十…

哀：仁くん！ そこまで、いいよ。いいよ。

健太：だったら、誰が哀ちゃんの彼か教えてくれよ。選んで、哀ちゃん。

哀：(悩みながら) わかったわ。これからの私の本当の彼は…

おわり

作者： キムゴヌ





## 誕生日の相談

---

### <登場人物>

ともか：ちえこの誕生日をサプライズで準備したいと思っている。

とよこ：ちえこが何が好きかよく知っている。

うみ：あまり空気を読めない。

ちえこ：シナリオの中では明日が誕生日である。「嵐」とケーキが大好きらしい。

---

明日はちえこの誕生日だ。

それに気づいたともかは、カフェで友達とちえこの誕生日をどう祝えば良いか相談している。

ともか：ちえこの誕生日、どうする？

うみ：そうね。プレゼントをあげるとか。

とよこ：プレゼントか。どんなプレゼントがいいかな。

うみ：ちえこちゃんが何が好きか知ってる？

とよこ：あ、ちえこちゃん「嵐」が好きらしいよ。

ともか：じゃ、先月発売された「嵐」のアルバムをプレゼントしようか。

とよこ：もう持っているかも。

ともか：そうかな。

その時ちえこが、ともか達を発見してやってくる。

ちえこ：ここで何してるの？

うみ：ちえこちゃん！ あ、ちょうど良(よ)かった。

ちえこ：え、何？

うみ：あのね、ちえこちゃん・・・

ともか：うみ！

うみ：あ、ごめん。

ちえこ：何？

とよこ：いや・・・何でもないよ。

ちえこ：えー、ほんと？

ともか：ほんとほんと。なんでもないから気にしないで！

ちえこ：へー、ほんと？・・・怪しいよ。

うみ：あ、ちえこちゃん授業あるんじゃない？

ちえこ：あ、そうだった。私、行くね。

三人：バイバイー

ちえこが授業に行く。

ともか：よかった。ばれなくて・・・

うみ：ごめん、ともか。

ともか：・・・大丈夫。それはともかくどうしようかな・・・

うみ：そうね。

とよこ：あ、そういえばちえこちゃん、ケーキが食べたいって言ってたよ。

ともか：じゃ、それにしようか。

うみ：私もケーキがいいと思う。

ともか：じゃ、明日ケーキ買ってみんなでちえこの家に行こう。

うみ、とよこ：うん！

おわり

作者 チェジウォン





## 何がはるなをさみしい気分にしたのか

---

### <登場人物>

はるなあい：会社員。女。26歳。きむらの彼女。  
きむらたくや：学生。男。24歳。はるなの彼氏。  
おかだまさき：学生。男。24歳。きむらの友達。  
あしだまな：会社員。女。27歳。はるなの仲間。  
まえだあつこ：会社員。女。25歳。はるなの仲間。

---

— きむらの学校。

おかだ：おい！週末に楽しくデートして来たやつの顔が何でそんな顔なんだ。けんかでもした？

きむら：あのさ・・・俺は女の心が全然分からない。

おかだ：え？ 女の心が全然わからないって？ 急に何言ってるの。

きむら：週末にデートをしたとき、はるながベンチに脛を強くぶつけてしまった。

で、俺はもちろん、傷がひどくならないかなと心配して怪我をしたところを見せてと言ったら、恥ずかしいくらい「いい」って言うの。私は大丈夫って・・・

俺は心配して、そうやったんだけど。

おかだ：それはな、お前、彼女は年上だろう？ ほら～

あれは自分が年上ってことを意識しすぎて、弱い姿を見せたくないっていう年上の本能だ。

きむら : え? 年上の本能?? そんなものがあるの?

お前、女の心をよく知ってる男だな!!

おかだ : こういうことは基本だ。

お前まさか、彼女の傷をそのままにしたわけじゃないだろ?

きむら : もちろんだよ。あ、でも、傷がひどかったわけじゃないけど、血がちょっと出て、それで薬局に行っ、薬とかを買って治療したんだけど、その後から彼女のテンションがさがってしまった。

これはどういうことだと思う?

おかだ : それはな、女は傷に敏感だ。

それが傷痕になると夏にスカートとか短いパンツとか履くとき、どんだけ気が気じゃなくなるかね。ね?

きむら : 女って繊細すぎだな。

あ、ということは、傷痕になることまで考えて先に心配を?!

そして、それを知ってるお前は、やっぱり女博士だな!! 知らないことなんてないんだ!

おかだ : たいしたことじゃないよ。

きむら : 女って、本当に複雑怪奇だな。

—はるなの会社。

あしだ : はるなはどうしてあんな顔をしてるの?

まえだ : えっと、それがですね、

あしだ : うん。

まえだ : 足の無駄毛の処理をしてなかったのに、彼氏が見てしまったそうです。

冬だから処理してなかったのに。

あしだ : えー、どうして見せてしまったの?

まえだ : 薬を塗るために、足を見せたそうです。

おわり

作者 クオンミネ



## 紹介してください！

---

### <登場人物>

酒井なつき（23）：高橋とは恋人関係。

高橋たかし（25）：酒井とは恋人関係。

横井あきお（25）：高橋の友だち。

山口ひろし（25）：高橋の友だち。

### <設定>

なつきが自分の女友達を先輩に紹介しようとしているが、誰を紹介するか迷っている。そこに高橋が登場して議論になる。

---

あきおとひろしが自販機の前に立っている。なつきが呼びかけるところから始まる。

なつき：先輩～～。

あきお、ひろし：あ、おはよ～ん。

なつき：授業は終わったんですか？

あきお：うん、さつきね～。なつきも？

なつき：はいっ。



ひろし : あーそうだ。なつき、最近たかしとはどう？ 昨日喧嘩してたってうわさが…

なつき : あははは。夜に仲直りしましたよ～。

あきお : はやっ！ ってか、何で喧嘩になったの？

なつき : やや…それが…。ほんと些細なこと～。旅行行こうって話になって、どこ行こうかって話で意見が違ってて喧嘩に…

ひろし : なに？

あきお : ムカつくな～

なつき : あははは…。あー、先輩たち彼女はまだいませんよね？

あきお、ひろし : おりませ～ん。

あきお : なんで？ からかってんの？

ひろし : 彼氏いる子に言われたらほんと泣くわ。

なつき : いいえ～、実はあたしの友達が男の先輩紹介してくれ～ってずっと言ってて…。先輩たちがよければって思って。

ひろし : なつき様！！

なつき : でも～、合コンみたいな感じですから…。一人だけなんですよ。

あきお : うっ、お前は先月まで彼女いたんだから、おれに譲れ！！

ひろし : 聞こえませ～～ん

あきお : おい！！ シカトするな～。

なつき : あ～、待ってください…どうしょ。じゃこうしましょ。たかちゃんに選んでもらったらどうですか？ これなら公平でしょ？

ひろし：勝った。お前よりおれのほうが親しいも～～ん。それにおれが正義！

(なつきが電話をかける)

なつき：たかちゃん今どこ？ あ、一階？ よかった～、早く二階に来てね。詳しいことは来たら説明するから。

あきお：あ～きた。はやくはやく！

たかし：お！ いきなりなに？

なつき：ちょっとこっちに…

(なつきがたかしを引っ張ってすみで説明をする。)

(たかしは状況を把握して会話に入る。)

たかし：ってかおまえは分かれてからあんま経ってないだろ？

あきお：そうだよね！ でもこいつが自分が行くって意地をはってるから！ どうにかしてよ。

ひろし：もう前の彼女とは何の関係もありません。彼女がほしいですほしいですほしいで～す。

なつき：はああ

たかし：ってか紹介してくれる女の子って誰？

なつき：あたしの友達のすずほだよ。知ってるじゃん？

たかし：あの背小さくてかわいい子？

なつき：うん、すずほも結構長い間彼氏いなかったから寂しがってるの。だから私に話して、紹介しよっかなって思って。

ひろし : どんくらいかわいいの? なつきより?

たかし : そんなわけあるか! おれのなつきのほうがかわいさは何倍も上だ。

なつき : えへへ～

あきお : 目の前でのろけるな!

ひろし : ま～それはどうでもいい。お前、どっちを選ぶの?

たかし : 参ったな～。その前におまえたち、好みってある?

あきお : (もじもじ) おれは背が高くて長い髪が好きだけど…

ひろし : おれは背が低くてかわいくて名前が「す」で始まる子!!!がいです。

たかし : たわけ!

ひろし : はいはい、まじめに言います。本当に小さくてかわいい子だよ。

なつき : 好みはあってますね!

あきお : だまされるな～。

ひろし : 本当だってば。さらに、愛嬌のある子が好きなの!

なつき : そうですか? めっちゃ愛嬌があって甘えん坊ですよ、苦労するくらいに…。

あきお : しつこい子? あ…おれはおしゃべりな子は苦手だけど。

たかし : そう? でも無口よりは喋るほうがよくね? ずっと黙ってる子はそれもそれで苦労するよ。

なつき : あたしに向かって言ってる?

たかし : あ、あ、あ、あ、あ。

ひろし : ふふふ、ばかなやろうども～。もう紹介の件はおれで決まりだ～! 正義は勝つ。

あきお : 黙れ! ばか、勝手にきめるな!

なつき : さあさあ、話を戻して、早くえらんでよ…。

たかし : ごめんごめん、こいつらの悪ふざけに。

なつき : はやく～たかちゃん。

たかし : なっちゃん、ひろしにしてみる? ああやっつてうるさいから。

なつき : う～…でもあきお先輩が…

あきお : おれはいいよ～。たかしの言うとおりにああやっつてうるさいからな。ま、おれは実際会ってもそんなに積極的にできないし。

たかし : OK。じゃ決まりだな。おまえ紹介したらちゃんとまじめにするんだぞ!

ひろし : 了解～。心配いりません。

あきお : 本当にちゃんとできるかな。心配だな。

ひろし : おれが?

あきお : いや、その女の子がだ!

なつき : 詳しいことは後でメール送りますね、場所とか。

あきお : とにかくちゃんとしてね～。いい雰囲気になったらおごるの忘れるな～。

たかし : そうそう! おれは 아이폰 5。

あきお : おれはパソコン。

なつき : あ! あたしも～。mcm の鞆!

ひろし : はは～、こいつら。

あきお : うそうそ～。ご飯だけでもいいから。

ひろし : はいはいわかりました～。じゃ、おれは授業があるからまたね～。正義は勝つ！

たかし : わかったから早く行け！

(ひろしが出て行ってから、いきなりなつきの携帯の着信音になる)

たかし : 出てもいいよ。

なつき : うん。ごめん。

なつき : もしもし。あ！ すずほちゃん、あのね、前言ってたその紹介の話なんだけど～

なつき : えええ～～～なに～～～、ほかの子からもう紹介されたって？ うう～なんでもないよ、うん、またね。

(お互いに戸惑う。静寂が流れる。)

なつき : なぁぁぁに～～～このオチ～～～

三人 : かわいそう。

おわり

作者 キムセジン

## それぞれの進路

---

### <登場人物>

ソラ（23歳、女）：大学在学中。来年に卒業予定。就職や専攻のことで悩んでいる。

ユミ（23歳、女）：専門大学を卒業してネイルショップで働いている。

ジヨン（23歳、女）：休学してからずっとバイトばかりしている。

### <内容紹介>

三人は高校同級生で仲がいい友達。それぞれ大学と住んでいる所が違って、大学に入ってからまったく会えなくて、連絡だけをしていた。ある日ようやく会う約束をして、三年ぶり会うことになって今、先に来たソラ一人でコーヒーショップで二人を待っている。ちょっと時間がたってユミとジヨンと一緒にショップに入って、笑いながらやってくる。

---

ソラ： あら、どうして二人で一緒に来たの？

ユミ： ああ、店の前であっちゃったんだよー

ソラ： そう？

ジヨン： （座りながら）ていうか挨拶よりその言葉？

ソラ： へへごめん！私たちこれ何年ぶり？ 高校卒業してから全然会えなかったから三年ぶりなのかな？

ジヨン： 本当にそうだね。時間たつのが早いなあー

ユミ： でもみんなあまり変わってないね。三年も会えなかったのが信じられないぐらいだよ。

ソラ : そうだね。あー久しぶりに会うから本当うれしい！

ジョン : ね、何か食べながら話しよう。なに食べる？

ユミ : うん.. 私はチーズケーキとキウイスムージー。

ソラ : じゃ、私はアイスアメリカ-ノにする。

ジョン : 私は.. チェリージュースで。じゃ、わたしが注文しに行って来るから待ってて。

ソラ : えっ、一緒に行くよ。

ジョン : いいから二人で話でもしていてねー。

ユミ : ありがとう

ジョン、立ち上がって注文しに行く。

ユミ : で、どう？大学生活は。まだ通っているでしょう？

ソラ : うん。まあ悪くはない。四年生だからいろんなこと悩んでいて、それがちょっと大変だよ。

ユミ : そうだろうね。いろんなこと考えなきゃだめだし…私も卒業前にはそうだった。今はどうにかして働いているけどね。

ソラ : 仕事するのも大変そう。でも去年ユミが就職したと連絡来た時、やっぱり羨ましかった。

ユミ : そう？まあ…そうかも。私にとってはまだ学校に通っているソラが時々うらやましいもん。

ージョン席に戻ってくる。

ジョン : 何の話していたの？

ユミ : (ちょっと笑いながら) お互いに羨ましいと言っていた。

ジョン : え?

ユミ : ソラがいろいろ悩んでいるって、就職とかさ。

ジョン : あ、そういうことか。

ソラ : うん。来年に卒業なのにいまさら専攻とかもこれで良かったのかなと思っているし。二人はどう? 二人とも働いているじゃん。ジョンは休学したけどとにかくバイトたくさんしているし。

ユミ : うー…どうかな。

ジョン : 私は…うん…連絡していたからわかると思うけど、私も専攻とかすごく悩んで結局こういう生活してるんだけど、正直いいとは言えないよ。

ソラ : えっ、そう…

ジョン : うん。なんか最初はしちゃおう! と思って休学したんだけど、いつ復学するかも分からなくなったし、バイトしていても悩みは減らなくてね。

ユミ : まあー私たちが先に働いてはいるけど、それでも悩みがなくなることもないよ。わたしは今の仕事が好きでしているから気にいってはいる。でもすごく仕事が大変だし、お金もあまり稼げない仕事だから。

ソラ : そういうものなのかな。みんなそれなりに悩みがたくさんあるよね。

ジョン : うん。そうだと思う。だからソラが今悩んでいるのも当然かも。あまり心配しすぎるのもよくないよ。ただ、ちゃんと考えてから決めたほうがいいと思う。

ソラ : うん、わかった。ありがとう。

ジョン : (急に立ち上がって) あ、注文したものが来た。もってこなきゃ。

ジョンが取りに行く



ソラ : ちょ、ちょっと！

ユミ : あれくせだよくせ、昔と全然変わってないね、ほんとうに。

        ジヨンもってきて座る

ジヨン : あ、そうだそうだ。みんなこれみてみて。

ユミ : うん？ なに？

ジヨン : (ケータイを見せながら) これ見て、いつのか覚えている？

ソラ : あら、私たちだよな？ へえーなんか懐かしい感じ。

ユミ : あ、わかった！これ高校一年のときでしょう？ いつか一緒に家に帰ったとき。

ジヨン : そうよーむかしのケータイにあったのよ。(ちょっと笑う) なんで撮ったのかは思い出せないんだけど。

ソラ : ああーなんかいいな。そんなときもあったね。三人でよく一緒に帰ったよね。あれこれしゃべりながらいつも楽しかった記憶がある。

ユミ : 本当そうだった。なんでもないことでいつもうきうきして。

ジヨン : そう。わたしもこれ発見したときなんかうれしかったよ。こんなに楽しそうな若い私が出たんだと思って。あんたたちにも見せてあげたらきっと喜んでくれるだろうと思ってもってきたよー。

ソラ : うん、ほんとうにうれしい。ありがと！

ユミ : なんか寂しいというかちょっと悲しい感じもする。この時には一緒にいるだけでこんなに楽しかったのに…今はこんなこどもみたいな気持ちもなくなったよ。会は私たち会うのも難しいし、それぞれ忙しすぎるから。

ジヨン : そうだね…

ソラ : うん…あ、ひさしぶりに学校に行ってみない？ これ見ていたら行きたくなった。

ジヨン : そうだね、行って写真も撮ろう。

ユミ : それいいね！行こう行こう！

三人、笑いながらコーヒーショップを出て行く。

おわり

作者 イドンヒ



## 彼女は・・・

---

### <登場人物>

かおる 大学3年生。そうまといた彼女に惚れた。

そうま 大学3年生。無関心な性格。彼女のことを知っている。

みつき（日本人女性） 大学3年生。いたずら好きな性格。みつきと呼ばれている。彼女のことを知っている。

彼女 かおるが惚れた女性。

---

かおる： いや、ちょうどよかった。そうま君。

そうま： あ、かおる君、こんにちわ。

かおる： ね、この前、学校帰りに一緒にいた彼女は誰？

そうま： え…？ あ！それはなぜ？

かおる： いや、別に…。ただ気になって。

そうま： え、何？ 彼女に興味あるの？

かおる： いや、何ていうか、ああ…うん、ひとめで惚れたっていうか、おれの好みだよ。

そうま： へえ～ そうなんだ。

かおる： もしよかったら、紹介してくれない？

そうま： まあ、紹介ぐらいはいいけど。

みつき : (行き成りあらわれて) 何々? 何の話?

かおる : ああ、びっくりした。何でもないから、あっち行って。

みつき : なに? ひどいじゃん

そうま : あ、みつき? なにしにきたの?

みつき : いや、通りかかったところ、何か面白いはなしをしてるみたいだったから、私もまぜてくれないかなって。

そうま : あんまりおもしろいはなしじゃないけどな。前の彼女しってる? その子のことをはなししてるどころだった。

みつき : あ、例の彼女? で、彼女がどうしたの?

そうま : いや、こいつが彼女に惚れたって。

かおる : きさま、それを言ってしまっただうする!

みつき : へえ~、まあいいじゃん。たいしたことでもないし。かおる君、意外にそんなタイプなんだね?

かおる : よけいなおせっかいだ。あ、とにかく彼女はどんな人? 何歳? 趣味は?

そうま : とりあえずメールアドレスぐらいは教えてあげるから...

みつき : ダメダメ、男なら正面突破で立ち向かって告白しなければ~!

そうま : いくらなんでも急に告白って、それはだめだろ。

かおる : そうだよ。いきなり告白はちょっと恥ずかしいよ。

みつき : やっぱこういうことに慣れていない君には無理だろうね?

かおる : 無視するな!

そうま : じゃおれは忙しいから、呼び出して来るよ。

かおる : ああ、どうしよう。

みつき : それじゃあ一応練習してみたらどう? やってみて。「あなたが好きです  
付き合ってください」

かおる : 何、恥ずかしい。

みつき : じゃ、いってみて。

かおる : やめろよ~!

みつき : 早く~!

かおる : (小さな声で) あ, あなたが好きです

みつき : 声大きく。もう一度~!

かおる : (大きな声で) あなたのことが好きです!! 付き合ってください!

みつき : まあ~ なかなかいい感じだね。あ~! きた。全力でがんばって。私はこれで。忙しいから。じゃあね~ (立ち去る)

女性 : あの~、すみません。私に用事があると聞きました。何でしょうか?

かおる : あの、お名前は?

女性 : キムユリですけど

かおる : (驚いて) 韓国人ですか? ああ、でも、大丈夫です…

女性 : え? なにが?

かおる : あ、それで、よかったら私と付き合ってください。あなたのことが好きです!!

女性：ごめんなさい。そういうことはできません。私、韓国から来た留学生です。だから恋愛は 無理です。

かおる：留学生でも大丈夫です。留学と恋愛は別じゃないですか？

女性：それに私、韓国に夫もいる人妻だから、付き合うことはできないんです。ごめんなさい。

(慌てて 立ち去る)

かおる：ああ、振られた…じゃなくて、あいつらおれをからかうなんて…。ちくしょうめ、おぼえてろ～！！！！

(いまいましそうにかえる)

おわり

作者 チョンジュンピョ



## シェアハウスの4人と1匹

---

### <登場人物>

1. 松尾小百合 (まつお・さゆり) \_ 23 歳
2. 大倉亮 (おおくら・りょう) \_ 23 歳
3. 横山すばる (よこやま・すばる) \_ 24 歳
4. 丸山章大 (まるやま・しょうた) \_ 25 歳

\*大学で韓国語サークルをやっている四人。年は違うけど友だちみたいに仲がよい。

それで、みんなシェアハウスと一緒に住んでいる。

\*舞台は大学の近所にあるシェアハウス。

横山と丸山は居間でテレビを見ている。そこに松尾が犬を懐に抱いて大倉と入ってくる。

---

横山 : ああ、今帰ったの？

松尾 : うん？ あ、うん！コンビニにも行ってきた。

横山 : へえ～

大倉 : 何見てんの？

丸山 : (無限挑戦)！ 今週の見た？めっちゃ面白いよ。

大倉 : そう？ まだ見てない。あ！あとで見るから言うなよ！

丸山 : 嫌だ～今週の内容は～

松尾 : 横！横君は犬のことどう思う??

横山 : え？

松尾 : 子犬…のこと…。もし大丈夫だったらここで飼ったら…

丸山 : 反対～!!! 俺、アレルギーあるから…

大倉 : 本当? そうだったの…?

丸山 : うん・・・だからダメ!

横山 : 俺も見るのはいいけど飼うのはちょっと…嫌かも…。毛とかで汚くなるし…。

丸山 : そうそう!

松尾 : あ…そう? あ…私、先に入るね

横山 : 何で? それより何持ってるの?

松尾 : え?

丸山 : ふところに入ってるの～食べ物なの? 俺にもちょうだい。

松尾 : え? これ…

大倉 : 何もないよ～ 俺たち課題あるから～もう上がるよ～

横山 : え! うん。頑張ってるね～

「シーン1 終り」



小百合の部屋

松尾：ありがとう…

大倉：いや…いいけど、これからどうするつもり？

松尾：飼い主から電話が来るまで内緒にしてください！ お願い～!!

大倉：大丈夫かな…横はともかく、丸はアレルギーじゃん。

松尾：でも…仕方ないじゃん…。じゃあ、亮ちゃんはこの小さいワンちゃんをまた寒いところに捨てるって言うの？

大倉：いや…それはないけど…分かったよ…！

こういう話をしている間、横山と丸山がいきなり入ってくる。で、松尾と大倉は急に犬を隠す

丸山：何してんの～

横山：課題やらない？

松尾：いや…寒くて…暖まったあとするつもりで…

横山：(ふくらんでいる布団を見て) それは何？

大倉：え？これは…。

丸山：ハックション！！

松尾：え？ 風邪引いたの？

丸山：25年間の経験から言うと！ これは犬アレルギー!!

大倉：最近かなり寒いからさ、風邪引いたんじゃない？

丸山 : そうかな…。

横山 : 俺、葉あるよ！ 俺の部屋に行こう！

丸山 : うん…。課題頑張れ～

大倉 : うん。

松尾 : うん！



「シーン2 終り」

次の日松尾の部屋

松尾：ワンちゃん～お風呂に入ろう～

大倉：ばれたらどうするつもり？ 風呂まで…

松尾：でも…亮ちゃんが助けてくれればいいじゃん。

大倉：あ…もう！

横山：小百合ちゃん～中にいるんでしょ？ 入るよ～～

松尾：えっ！！

横山：え！ お前！ 犬！

松尾：ご…ごめん!! 飼い主から電話くるまで…そのときまで飼っちゃダメ…？

横山：でも丸が…。

丸山：亮ちゃん～横ちゃん～小百合ちゃん～ハックション！どこにいるの～？

大倉：来た！

横山：どうしよう…

丸山：ハックション！みんな～やっぱりこの中に犬がいそう！ 外ではくしゃみなんか…

松尾：丸君…

丸山：やっぱりいたじゃん!! 何なのこれ…どこから来たの？

松尾：それがね…

大倉：コンビニの前において、かわいそうだったから連れてきたの。

松尾：飼い主からもうすぐ電話が来るよ…その時までここで飼ったらダメ…？

丸山：当たり前じゃん！俺苦しいよ…俺が元の所へ返す。ハックション！

松尾：うん…ゴメンね…嘘ついて…

犬をコンビニの前に置いて帰るが、ずっと付いてくる犬。でもしようがないと言いながら戻る亮。

「シーン3 終り」

\*次の日皆居間でテレビを見ている。

松尾 : ワンちゃん…ごはんは食べたかな…

横山 : コンビニの前なのにまさか飢え死にするわけないよ。

大倉 : そうそう。飼い主が来たかも知れないし。

松尾 : そうかな…

横山 : ところでお前はまだ痒いの? 犬もいないのに。

大倉 : 一日ぐらい過ぎたら大丈夫になるんじゃない?

丸山 : ちがうよ…もともとこうだよ…

大倉 : そう?

横山 : しんどいね…あ…面白いのやってないかな?? リモコンはどこにあるの?

松尾 : 丸ちゃんのところに。

横山 : またお前か! リモコンはお前のものじゃないんだから、こっちに渡せ!

大倉 : え? これ犬用ガムじゃん? なんでこれがあるの?

丸山 : ち…違う! それ…俺のだよ!

松尾 : まさか…また連れてきたの?

丸山 : 違うって! 何でおれが犬なんか…

横山 : 探してみようかな!

丸山 : ダメ!!

横山：何だ…！？　ここにいるじゃん！

大倉：　何でここにいるの??

松尾：　もちろんうちのワンちゃんがチャーミングだからじゃん。

丸山：　可愛そうだから…

松尾：　だったら最初から飼うって言えば良かったのに。

丸山：　うるさい…

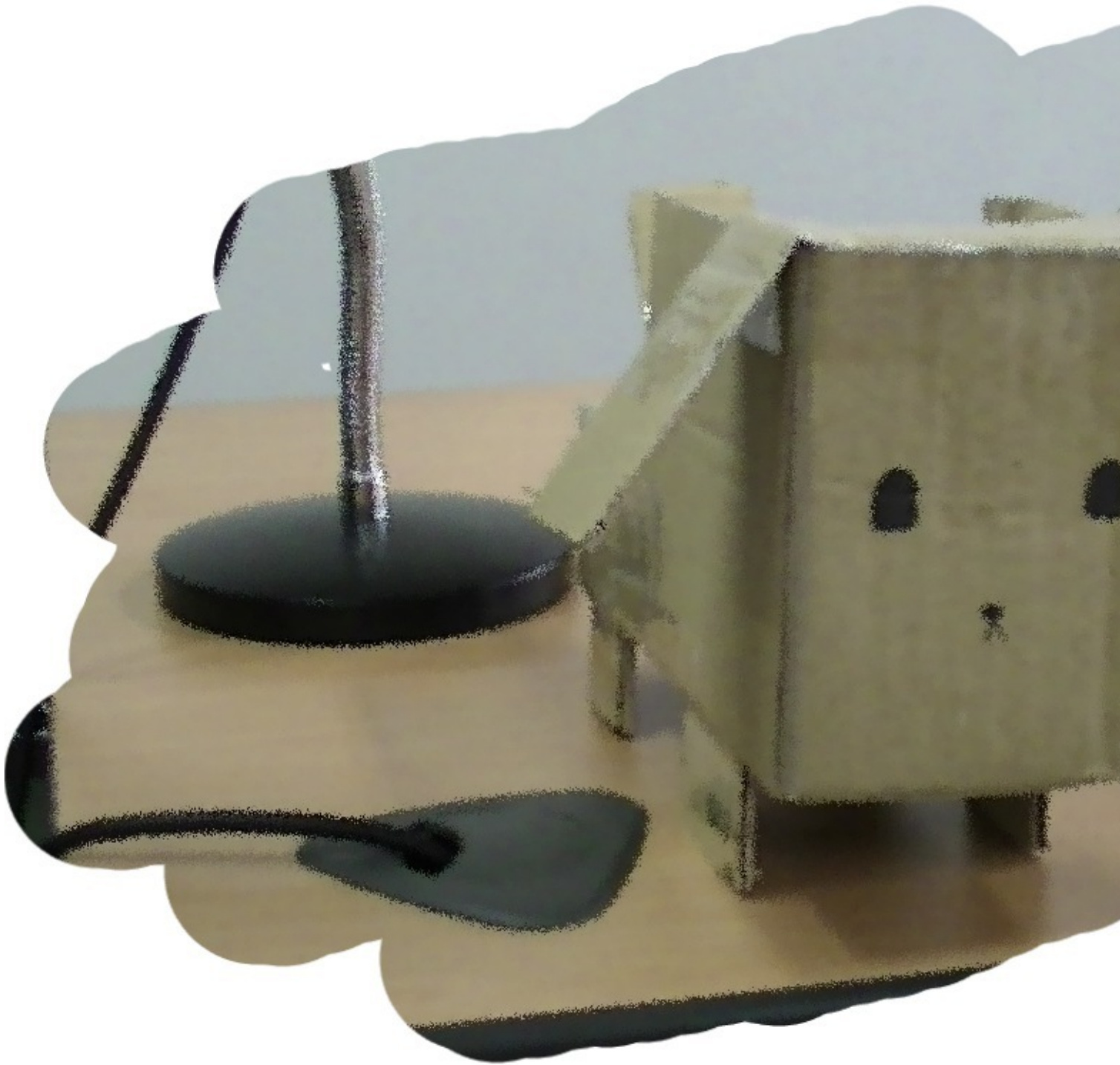
大倉：　恥ずかしがるなよ～

横山：　じゃ、飼い主が現れるまで一緒に世話をしよう。

丸山：　うん…

おわり

作者　キムジヒ



このシナリオを実際に演じた時に使われた犬です。

名前は Box といいます。

## あとがき

---

いかがだったでしょうか。

授業の成果の一環ではありましたが、比較的やわらかめの内容が多かったのではないかと思います。

ここでとりあげたシナリオもそうですが、全体を見ても大学生にとって身近な恋愛や友情の物語が多かったです。

授業では、これらのシナリオの一部を実際に演じてもらいました。

なお、それぞれのシナリオのタイトルですが、学生が自主的につけたもの以外は、内容を見て私がつけました。

また授業の成果などを電子書籍の形でこちらに公開していきたいと思っております。

そちらもあわせてご覧いただけたら嬉しいです。

2013年 10月 吉日

丸島 歩（関東大学校・日語日文学科）



韓国の大学生が日本語で書いたシナリオ

<http://p.booklog.jp/book/77312>

著者： 関東大学校 2013 年度「日戯曲演習」受講者

編集： 丸島 歩

编者プロフィール：<http://p.booklog.jp/users/kd-marushima/profile>

编者ホームページ：<https://sites.google.com/site/mrsmaym/>

感想はこちらのコメントへ

<http://p.booklog.jp/book/77312>

ブックログ本棚へ入れる

<http://booklog.jp/item/3/77312>

電子書籍プラットフォーム：ブックログのパー（<http://p.booklog.jp/>）

運営会社：株式会社ブックログ